

【特別支援学校用】

令和7年度学校評価 計画

様式1(特別支援学校)

達成度(評価)	
A	: 十分達成できている
B	: おおむね達成できている
C	: やや不十分である
D	: 不十分である

学校名	佐賀県立うれしの特別支援学校
1 前年度 評価結果の概要	昨年度の学校評価においては、最終評価及び学校関係者評価ともに全ての項目で「A」を達成し、取り組み内容をほぼ実施することができた。一方、生徒一人一人のニーズの違いからつきたい力が多様化していることにより、指導・支援のアップデートが欠かせない。また、いじめの早期発見・早期対応のため組織的対応を行っているが、児童生徒の実態に合わせてさらに改善をしていきたい。
2 学校教育目標	キャリア教育を推進することにより、児童生徒一人一人が個性と能力を発揮し、心豊かにたくましく、積極的かつ主体的に社会に参加し、貢献する人間を育成する。
3 本年度の重点目標	(1) 特別支援教育の専門性の向上と指導力の育成 (2) 学習指導要領に基づいた教育の実践 (3) 希望進路100%の実現 (4) 地域と歩み開かれた学校づくり (5) 命と人権を大切に作る安心・安全な学校づくり (6) 働き方改革の推進

4 重点取組内容・成果指標				中間評価		5 最終評価		主な担当者		
(1)共通評価項目				中間評価		最終評価				
評価項目	重点取組 取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果		評価	意見や提言
●学力の向上	○児童生徒一人一人のニーズに応じた指導・支援による学力の育成 ○新学習指導要領を踏まえた教育の実践	○教職員の特別支援教育の専門性向上に努め、「学力が育ってきた」と回答する保護者70%以上。 ○「3観点を意識した指導・評価に取り組んだ」と答えた教職員70%以上。	・個別の指導計画に基づいて指導内容及び方法を適切に設定し、学習評価をとおして学力の育成を図る。 ・各教科において3観点を意識した指導・評価を行う。そのための研修を行う。							研究部・自立活動部
	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○図書を活用した教育実践。 ○社会におけるルールやマナーに関する指導の充実。	・授業時間はもとより休み時間等を含めた学校生活全体を通しての活動において、社会性や道徳心の向上に資する支援・指導・働きかけを行う。							教務部
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	●いじめ防止等(いじめの定義、いじめの防止等のための取組、事案対応等)について組織的対応ができていないと回答した教職員90%以上。	・いじめに関するアンケート調査を年5回実施する。 ・学校基本方針の共通理解と周知徹底、いじめへの対応力向上を図る研修を年に2回以上行う。							生徒指導部
	●児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動の充実。	●「教職員は、子どものよいところを口頭や連絡帳などで保護者に伝えてくれていると思う」と回答した保護者70%以上。 ●「児童生徒が将来の夢や目標を持つように、一人一人の実態に応じた指導をしている」と回答した教職員80%以上。	・児童生徒の望ましい行動やよいところを褒めて、認める。そして、そのことを連絡帳などを通して保護者へ伝える。 ・児童生徒が自分で考えたり体験したりして、将来の生活を具体的にイメージする学習の充実。 ・児童生徒が自己の将来とのつながりに見直しをもったり、学習を振り返ったりするなど、授業改善を進める。							教務部
	◎「佐賀への思いを醸成する教育活動	◎「佐賀県に誇りや愛着を感じる」と回答した生徒80%以上。 ◎地域の歴史や産業等に触れる校外学習や講演会等、各コース・課程年間1回以上。	・「佐賀語り」等を活用した授業に取り組む。 ・地域でのフィールドワークや博物館等の見学など郷土の人材を活用した体験授業・講演会を実施する。							教務部
○災害に強い安全・安心な学校づくり	○防災に関する学校の取り組みについて「安心している」「やや安心している」と回答した保護者・教職員80%以上。	・大雨・火災・地震など、様々な想定による有効性のある避難訓練を実施する。 ・児童生徒が安全・安心に過ごせるように、校内の安全管理を徹底する。							防災安全部	
●健康・体づくり	●「望ましい生活習慣の形成」	○「毎日歯磨きをしている」と回答した児童生徒70%以上。 ○寄宿舎において、就業時間・起床時間が一定する舎生の割合を90%以上にする。 ○週3日以上運動習慣がある生徒の割合80%以上。	・学校歯科医、歯科衛生士によるブラッシング指導や「ほけんだより」、掲示物を通して歯磨きの大切さを伝える。 ・寄宿舎日課表の活用と視覚的なスケジュールを提示する。 ・個人の好きな活動を把握し、体を動かす機会へとつなげる。							保健指導部・舎務部
●地域支援	●効果的な地域支援に向けた特別支援学校のセンター的機能の充実	○積極的に相談事業を推進し、巡回相談及び来校相談においては依頼に対する実施率100%を目指す。 ○各学部・舎と連携し、地域の事例に役立てるために、様々なチーム支援の事例を6事例以上まとめる。 ○分掌部と連携し、地域に役立つ情報提供を行う。(年4回以上)	・地域支援リーフレット及び巡回相談の案内を発信する。地域の学校等のコーディネーターやエリアリーダーとのネットワークを作り、地域の特別支援教育の充実を図る。 ・相談支援部の分掌部会で「ケース会報告」の機会を設ける。 ・学校ホームページに地域の学校等に役立つ情報を紹介する。							相談支援部
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 ●年間20日の年次休暇のうち、職員1人当たりの年次休暇の取得日数14日以上。	・定時退勤日の設定を行うとともに、行事の精選や規模の縮小を行い、時間外在校時間を減らす。 ・年休取得を朝礼等で呼びかけなど休暇を取りやすい職場づくりを行う。							管理職
	○業務の効率化を図るための校務用PC及び学習用PCの活用	○「毎日SEI-Netの掲示板やメッセージを確認する」と回答する教職員90%以上。	・教職員への周知や連絡は、原則、事務システムの掲示板やメッセージを使用することとし、朝礼や教職員会議での口頭での伝達を減らす。							情報学習部
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目				中間評価		最終評価		主な担当者		
評価項目	重点取組 取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果		評価	意見や提言
○キャリア教育の充実	○希望進路達成率100%の実現  ○進路開拓の取組の充実	○「児童生徒、保護者の進路ニーズに応じた情報提供や就業・施設体験の設定ができている、おおむねできている」と回答する教職員90%以上。 ○「自分らしい生き方や進路について、学校で学んだり先生に相談したりしている」と回答する児童生徒80%以上。	・地域の企業や施設、関係機関と連携した研修及び全学部における就業・施設体験の理解、体験先新規開拓。保護者の進路研修(外部講師)の実施。 ・生徒の特性や進路ニーズに合った就業・施設体験の実施と進路相談の充実(事前・事後学習、卒業後の社会生活)。「つながり」「積み上げ」を意識した進路学習を行う。							

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育

5 総合評価・ 次年度への展望	
--------------------	--